6 その他の設置・取扱い上のご注意

設置場所について

・運転音の値は無響室換算した時の製品正面側での値です。実際に据付けた状態では、周囲の騒音や反響などの影響を受けます。また、インバータ機の場合、最大負荷運転時、製品の表示値+3dBAの運転音となる場合がありますのでご注意ください。設置場所において周囲への騒音が懸念される場合は防音壁を設置することをおすすめします。
・室内ユニットを含め、切削油など鉱物油の立ち込める雰囲気の場所には設置しないでください。
・酸性またはアルカリ性雰囲気の場所には設置しないでください。
・沿岸部など潮風の影響を受ける場所には、耐塩害仕様または耐重塩害仕様の室外ユニットをおすすめします。
・可燃性ガスの漏れる場所や引火物のある場所には設置しないでください。火災の原因となります。特に、氷蓄熱ユニットは100℃以上の熱で変形し、発火や火災、水漏れ、強度低下の原因となります。
・電気的なノイズが問題となるような場所では、その影響を充分に考慮した設置・機種選定を行ってください。特に電子機器類などが設置されている場所からは室内ユニットも含め、離れた場所に設置することをおすすめします。
・台風や強風、地震も考慮し、機器質量に充分に耐えられる設置にしてください。強度不足の場合、破損や倒壊、落下をまねき非常に危険です。
・この他、工場など電圧変化の激しい場所、調理場など油の飛沫や蒸気が多く発生する場所への専用機以外の設置はお避けください。
・空調面積に対して負荷が大きいサーバールーム等では、サーモオフ等で室温が急激に上昇する場合がありますのでご注意ください。

冷媒について

・当社が指定する冷媒以外を封入することは、絶対に行なわないでください。封入冷媒の種類については、機器付属の取扱説明書あるいは機器本体の銘板に記載されています。それ以外の冷媒を封入した場合の誤作動・故障などの不具合や事故につきましては、当社としては一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

室外ユニットの据付について

・各機器の所要スペースを確保した併設をお願いします。
・各機器の据付は、販売店または専門業者にご依頼ください。ご自分で工事をされ不備があると、水漏れ、漏電、倒壊などの原因となります。また『据付説明書』をよくお読みの上で、正しく据え付けてください。
・エアコンの故障が重大な影響を及ぼす恐れがある場所では、2系統以上の室外ユニットによる室内ユニットの複数台設置をおすすめします。
・ヒートポンプ式の暖房は、特性として外気温度が下がるにつれて暖房能力が低下します。寒冷地など、特に外気温度が低くなる地域では能力不足の可能性もあります。また、温風が天井付近にこもり、足元が暖まらない場合も考えられます。このような場合、別途、加熱装置が必要となる場合もありますので、お買い求めの際に、販売店と相談の上で、機種やシステムを選定してください。
・室外ユニットの容量より多い室内ユニットが接続できますが、この場合、接続された室内ユニットが同時運転した場合に定格能力を下回る場合がありますのでご注意ください。
・室外ユニットの設置場所において吹出し方向に隣のビルや塀などの障害物が近接している場合は、ショートサーキットが生じることがあります。このような場合は弊社に設置場所についてご相談ください。
・REFNET配管部材の展開において、REFNETヘッダーの下流には分岐部を設けないでください。また、28.0・45.0・56.0kW形室内ユニットの接続もできませんのでご注意ください。
・室外ユニットより結露水が発生する場合がありますので、基礎の周囲に排水溝を設け、機器周囲の排水に留意してください。また、屋上に据え付ける場合は、床の防水処理も必ず行ってください。

降雪・積雪について

・降雪は室外ユニットの空気吸込口を塞いだり、内部を凍結させる場合がありますので、降雪の多い地域では、外気が吸込口に直接当たらない方向に据え付け、防雪フードを取り付けてください。
・積雪も室外ユニットの空気吸込口を塞いだり、内部を凍結させる場合がありますので、積雪量の多い地域では、予想される積雪より50cm以上高い架台の上に据え付けてください。

ご使用に際して

・ご使用の前に必ず各機器の『取扱説明書』をよくお読みになった上で、正しくお使いください。
・各機器の点検、清掃には危険を伴うものや専門技術を必要とするものがありますので、『取扱説明書』をよくお読みの上、正しく作業を行うとともに、機器内部の清掃など専門技術を必要とする作業については、必ず販売店や専門業者にご依頼ください。

別売品・オプションシステムについて

・各種別売品は、必ず当社指定の商品をご使用ください。また、取付けにおいても販売店または専門業者にご依頼ください。ご自分で工事をされ不備がありますと、性能不良の他、水漏れや漏電、倒壊、火災などの原因となります。また、取付けに際しては『据付説明書』を、ご使用に際しては『取扱説明書』を事前に良くお読みいただき、正しくお取扱いください。
・D-BACSシステムの各機種の導入には、弊社との事前の打合せが必要です。ご計画の際にお問合せください。
・Ve-upコントローラーやマスターステーションⅢのデータによる料金計算は計量法によるものではありませんので、公的取り引きには使用できませんのでご注意ください。
・D-BACSシステムの空調管理システムとビル設備管理システムは同一のラインに接続することができませんのでご注意ください。
・スケジュールタイマーとD-BIPSの併用はできません。
・フィルターは必ずダイキン純正品をご使用ください。他社製を取付けた場合、充分な性能が発揮できなかったり、運転音が大きくなる場合があります。
・別売品には機器の設置に必要な必須別売品が存在する場合がありますのでご注意ください。
・別売品は、その組合せやエアコン本体の設置条件により採用や併用ができないものがありますので、ご検討の際にご確認ください。
・別売品によっては、エアコン本体の外形や外観、質量、運転音、その他能力特性が変化する場合がありますので、ご注意ください。
・別売品やオプションシステムにはダイキン工業(株)扱いの商品と、オーケー器材(株)扱いの商品がありますので、ご確認ください。尚、現地調達品についてもオーケー器材(株)で多数取り揃えておりますのでお問合せください。

室外ユニット耐塩害仕様について

・耐塩害または耐重塩害仕様の機種を採用しても、腐食に対して万全とは言えません。機器の設置や日常のメンテナンスにおいては『据付説明書』『取扱説明書』に示す諸注意を遵守してください。

受注生産品について

・受注生産品は、標準品と外形や質量、能力等が多少異なる場合がありますので、ご検討の際にお問合せください。
・受注生産品は、ご発注より納品まで標準品より若干の日数を要しますので、ご検討、ご発注の際に納期をご確認ください。

冷媒漏洩について

・本エアコンに使用しています冷媒R410A(HFC410A)は、それ自身は無毒・不燃性ですが、万一、建物内に漏れた場合、その許容量を越えるような小部屋では、換気装置などによる冷媒漏洩への対策が必要となります。

DESICAについて

・DESICA本体の運転音に比べ、給排気グリルの吹出し音は約8dBも高くなる場合があります。静かな場所に設置する場合はSA(室内空気)の本機出口側に別売品のフレキシブルダクトを使用されることをおすすめします。
・DESICAのハイブリッド素子はタバコのヤニや強い臭い成分が付着しても、素子(熱交換器)表面に吸着材を塗布しているため洗浄が行えません。ハイブリッドデシカ素子の交換が必要となります。
・DESICAに使用するダクト関連部材においては、延焼の恐れがある場所や防火区画に設置する場合は、防火ダンパーおよび防火ダンパー付部材を使用してください。また、防火ダンパーおよび防火ダンパー付部材は、半密閉または全密閉の燃焼器具(給湯器や風呂釜など)の排気用には絶対使用しないでください。
・防火、防災のため、建築基準法および関連規定により取付けなければならない装置器具は、原則として『(財)日本建築センター』が行う防災性能評定を受け、合格したものを使用しなければなりません。防火関連部材は、製造元の西邦工業(株)殿にて防災性能評定を受け、評定書を取得しています。尚、防火部材は温度ヒューズ72℃溶断品を標準としていますが、温度ヒューズ120℃溶断品もご用意できますのでお問合わせください。
・ダクト関連部材のジャバラは、地域によっては防火上使用できない場合がありますので、所轄の消防署(庁)にご確認ください。
・給排気関連部材についての寸法および圧力損失特性などについては、「ベンティエール総合カタログ」またはオーケー器材(株)にお問合わせください。

外付け電子膨張弁キットについて

・本キットは、低騒音を要求される部屋に室内ユニットを設置する場合に電子膨張弁の冷媒コントロール時に発生する冷媒通過音を低減するため、室内ユニットの外で冷媒コントロールを行うものです。
・据付条件および据付時の注意
〔据付条件〕
・本キットと室内ユニットとの間の配管長:5m以上、10m以下
・本キットと室内ユニットとの間の高低差:4m以下(どちらが上でも可)
〔注意事項〕
・本キットの取付前に、室内ユニットの電子膨張弁を全開にする作業を必ず行ってください。(この作業が不十分ですと、試運転に『UF』異常の表示がでる場合があります。)
・KEV25Cについては冷媒配管のサイズアップ(ϕ6.4⇒ϕ9.5)が必要な箇所があります。その他注意事項に関しては、据付説明書をご参照ください。